

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

- ☆青空市2
- ☆きょうされん街頭署名、
虫めがね3
- ☆虫めがね4、5
- ☆実習所報告、
歌と踊りの募集6
- ☆学習会報告7
- ☆太田さん連載8
- ☆小野塚さん連載9
- ☆和栗さん連載
寄付のお礼、スケジュール10
- ☆署名報告11
- ☆編集後記12

2008年
5
月号



青空市に行ってきました！！

日に日に暑くなってきました。梅雨にはいると台風が発生して、雨が降ってきます。ゴールデンウィークみなさんいかがお過ごしでしたか。僕は汐留に行きました。

松本 恵司



**青空市の
売上金額報告**

総売上金額
一一、九七二円
(そのうち工房商品
七、二四〇円)

皆さま、お買い上げありがとうございました。
うごぎいました。

四月二〇日日曜日増上寺青空市に参加をしました。外国人が沢山私達が作った品物を買ってくれました。その日はお祭りをやっていて、女の神輿と男の神輿が出ていました。

このごろは、男性よりも女性のほうが元気があるように感じました。

当会のオリジナル商品のメモ帳や、ビーズストラップが沢山売れました。また、良くバザーで出すような食器も売れました。子供達は、小さくかわいい小人形が好みたいでよく売れました。

仕事が終わって帰る時に雨がポツポツ降ってきました。私の知り合いも販売中に見に来てくれました。

首から下げられる時計を買いました。

今は電池を入れて使っています。

近岡 真由美

4月20日(日)午前10時～午後3時まで、増上寺にて青空市が行われ、風の子も参加をしてきました。フリーマーケットのような感じで、増上寺の赤門で行われました。当日の天気予報では、昼頃から晴れてくるかと思っていたのですが、雨がぱらついてきたり、肌寒くお客様も最初はまばらでした。風の子は、毎週月曜日に参加しているメンバーと職員さん、そしていつもお世話になっている、ボランティアさんが参加をしました。2つの班に分かれて店番と休憩を交互に行いました。風の子では、風工房の商品やバザー品などを売りました。初めて参加をした割には売上がよかったと思いました。また来年も、青空市が行われるのであれば、風の子一同参加をしたいです。



田中 聡

きょうされん街頭署名&募金

去る4月11日午後1時から、3時まで田町駅前で、きょうされん署名&募金がおこなわれました。今年は、お天気にも恵まれとても暖かく感じられました。さて署名はなんと2時間の間に16人、募金は3万5250円でした。募金、並びに署名して下さいの方々、本当にどうも有り難うございました。最後になりましたが、参加してくれた仲間みんな、職員さん、ボランティアの方々、本当にご苦労さまでした。

太田 稔



募金にご協力おねがいます!!

失敗してばかりの人生なのですが、今回はその中から幾つか書きたいと思えます。先ず前置き(?)として、性格の形成に失敗したと思っています。普通は嫌な(悪い)出来事より楽しい(良い)出来事の方が沢山思い出せる様に出来ているようですが(そうしない)と精神的にどんどん辛くなる為(みたい)です、僕の場合は逆で、悪い事(失敗・迷惑を掛けた等)しか思い出せないようになって(して)しまいました。お蔭で同じ過ちは繰り返さないと言う、当たり前の様な僕の信条には役立っています。下記に、性格が大きく関わっているであろう失敗(?)談を載せます。

まず、人付き合いの失敗です。性格も有るのでしようが昔から人との付き合い方が苦手

虫めがね

今回からテーマが新しくなります。「失敗談」というテーマでメンバーはどんな思い出を語ってくれるでしょうか。今回の担当は田中さん、田村さん、小野塚さん、右田さん、幸さんです。さあ、彼らの失敗談を笑い飛ばしましょう。

でよく分からず、幼稚園時代から異性はおろか、同性の友達も殆ど居ませんでした。無口・非社交的等の為なのでしょうが、やはりこれは直しがたい性格です。もともと昔から少しも変えようとしていけば、少しは人付き合いが巧くいつていたのかもしれません。

他には、人の為(人に喜んで・楽しんで)でもらえる、役に立てる為)になら自分の事は二の次と言う性格は元々有ったのですが、十数年前に『心肺停止』(?)し、後に蘇生した経験がある為に、更にそうしようとする性格が強まりました。一度無くなったが再び与えられた命だから其れを人の為に使えたらと思っています。

折角与えられた命なのだから、大事に使った方が良くと言う方が多いでしょうが。しかしなかなか人の為になれないどころか、周りの人に迷惑・逆に世話になっっている事が多々有ります。救世済民とまではいきませんが、もともと皆の為にあっていけるようになりたいです。



田村 亮彦





大学生活6年目。僕は寮を出て近くのアパートに住んでいた。アパートから大学まではカートで20分前後。川沿いの田舎道でのんびりとしたルートだ。5年目に必死になって単位を取りにいったがそれでも卒業には届かず、残り数コマの単位を取るために僕は大学6年目を過ごしていた。6年目ともなると大学のペースもほとんど掴めているし、受ける講義も教える程度だったので、大学には週に2、3回しか行かなかった。それがまずかった。

9月の初め、夏季休暇が終わり後期授業が始まる頃、僕は授業がいつから始まるかを確認せずに大体の見当で大学に向かった。その日は朝から雨だった。片手で傘を差し、もう片方の手でハンドルを操作してカートを運転する。電動カートも6年も乗れば慣れたものだ。アパートを出た頃は普通の雨模様だったが、進むにつれて次第に雨脚が強くなってきた。傘を少ししっかりと握り直して更に進む。大学まであと半分くらいの距離にきたあたりで本格的などしゃ降りになってきた。風も強くなり、傘を前傾に差さなければ雨を防げないほどの激しさだ。校舎が坂の上に見えるところまで来たが、雨と風の激しさはピークに達していた。傘を差している意味が全くないようだ。ブラウスはおろかTシャツからジーンズ、パンツまでぐっしょりと濡れている感じがした。学部棟に辿り着いたときには精も根も尽き果てていた。

学内にはいると僕を打ちのめす事実が待ちかまえていた。大学はまだ夏季休暇中で、講義の始まりは翌週からだったのだ。掲示板の張り紙でその事実を確認した瞬間、僕の頭は完全に真っ白になった。茫然自失の体（てい）でしばらく学内を彷徨った後、食堂に入る。「あらあんたどうしたの？ ずぶ濡れじゃない」顔馴染みの食堂のおばちゃんが驚いた顔で聞く。僕がここまで来た経緯を簡単に話すと「案外ぬけてるねえ」と呆れ顔で言いながら、生協に行行ってタオルを買ってきてくれた。濡れた体を拭いてもらい、温かいお茶を飲むととりあえず一息つけた気がした。

後になって知ったことだが、その日は台風が関東地方に接近していたらしい。天気予報を確認せず、しかも授業がいつから始まるかも確認せずに雨のなか大学まで行くなんて我ながら間抜けな話だ。濡れながら帰り、アパートにつくとまずシャワーを浴びて、髪を乾かしながら冷蔵庫からビールをとり、一口飲んで「こんなバカなことは二度とするもんか！」と固く誓った。

人間誰しも失敗はするものだ。大切なのは、失敗したことから何を学び取るかだ。



小野塚 航

「失敗は成功の母」という諺がありますが、それは何らかの行動をし 失敗してもそれを反省すれば、自分の欠点やこれまでの方法の悪い点がわかり、それを改めてゆくことによって成功すると言う意味です。

私は「失敗」を恐れている訳ではないのですが、その言葉自体があまり良い印象を持っていないのです。

何故かという、失敗した事によって、事故やケガや言葉の誤解や後悔などに繋がる事が多いからです。

例えば、交通機関で言えば、飛行機の運転の過ち、点検ミスなどで急落して、多くの人が死亡や大ケガをするという事故が起きています。それと同様に、電車や自動車、バイクなどでも、ハンドルの操作を間違えたり飲酒運転をしたりして事故になっています。

言葉で例を挙げれば、私が食事をしている時に家の近くの薬局の人が薬を届けてくれた後、薬の確認をしたかったので食事の途中で介護人のKさんに「その薬の確認をしたいので全部出して下さい！」と言ったら、袋から出してきて私がそれを見ている間に、まだ残っている食物を私に黙って処分されてしまいました。Kさんに「薬を片付けて食事を食べさせて下さい！」と言ったら、怒った様子で「もう食べないと思って勝手に処分した。もう食べなくてもいい！」「何で食事が終わってからやらないの！」と言われてしまいました。確かにその通りだと思います、私の判断ミスと反省し後悔しました。でも食事を処分された事については少し腹が立ちました。

幸 高史



虫めがね テーマ：失敗談



十年以上前の事なので、頭の中から消したい過去です。

田中 聡

僕の最悪の失敗談は、小学部三年生の頃冬休み明けの土曜日に、クラス全員で多摩川土手に凧揚げをしに行った時のことです。皆で作った凧をクラス担任の先生が揚げていたのを見ていて、僕もやりたくなり自分で作った凧を揚げていました。すると、足下をよく見ていなかったため、いつの間にか土手からおっこちてしまいました。そしてそのまま病院へ運ばれたようです。僕はその一瞬の記憶がないので「どうやって落ちてしまったのか」や「病院までどうやって運ばれたのか」という記憶は今でもありません。意識が回復したのが、病院で治療を受けているときでした。前歯が折れていたり、足の膝から下が血だらけの大けがをしていました。入院しないですんだのが幸いです。その後、治療が終わり学校へ戻り、スクールバスに乗り家に帰りました。先生も事情説明をしに一緒に帰りました。停留所へ着き僕がバスから降りると、家族全員ビククリしていました。その後は、校長先生からの謝罪の電話があり、何名かからの電話もありました。今考えると、自ら転がり落ちたのか！それとも・・・これは二





実習所報告



港南実習所

三月下旬、桜の開化に合わせて桜見物に出かけました。（実習所近辺を散策してきました）

普段は室内にいるので、とてもすがすがしい気分になりましたし、綺麗な桜を見る度に、日本人に生まれて良かったと再認識させられます。四月にも外出してきました。

企画は普段、パソコンに向かっていたのでとても、リフレッシュした気分になり頭を冷やすには良い日になりました。

三木 直人

高浜実習所

仕事や内職は凄く楽しくて頑張っています。内容は『牛乳パックで和紙作り』・『箸の袋詰め』・『紙袋にシールを貼る』仕事です。

和紙作りで紙を漉く際に木枠や掬う網に汚れが入るために、和紙にゴミが入りやすいのが難点です。

斉藤 臣一

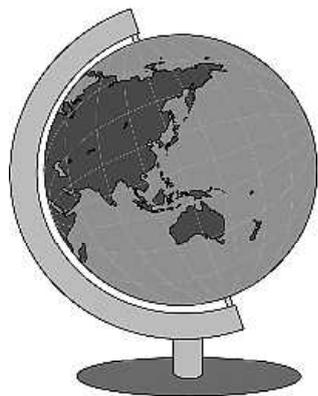


もし参加していただけるのなら、高浜実習所の矢代までご連絡下さい。よろしくお願い致します。

日時 七月十二日（土）
十三時頃～十六時頃迄
場所 麻布区民センター

今年「きよしのズンドコ節」を歌います。その時に手助け及び一緒に参加して下さいるボランティアを募集しています。

歌と踊りの集い
ボランティア募集



4月9日【酒の起源・俳句】

前半は丸岡さんが先生となり、酒の歴史や種類による材料・製造方等を面白可笑しく教えて下さいました。後半は内田さんと矢代さんが先生になり、俳句の作り方を教えて頂きました。季語などを学びました。

4月16日【歌と踊りの詩作り・世界と日本の地理】

前半は自由題で各自好きなことをテーマとして、歌と踊りに提出する用の詩を作りました。後半は岡本さんが先生となり、世界と日本の地理について学びました。世界中での総人口や今までに計測された最高気温・最低気温などを、クイズ形式で学びました。



学習会報告

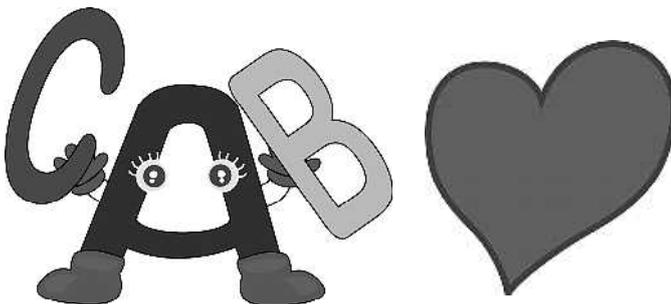
4月30日【英語・音楽鑑賞】

英語は小林さんに先生を受け持って頂きました。日本語の諺・故事成句を英文にするとどうなるか、日本特有の物（固有名詞）が英語の辞典ではどう紹介されているか等を、クイズ形式で学習しました。後半は色んな人が持ってきたCDを掛けながら、くつろぎました。



4月23日【ゲーム】

前後半ともにゲームをやりました。『トランプ』・『人生ゲーム』・『ドンジャラ』の3班に分かれました。僕はトランプが大好きなので、今回もトランプで遊びました。また今度もトランプで遊びたいです。



母の思い出

第十回

太田 稔

そして君塚さんはたびたび僕たちの家に来るようになった。彼の性格はあんな男らしい男にその後お目にかかったことがない。その頃僕たちはまだ子供だった為、チョコレートとかチューインガムを良くお土産に買ってきてくれたものである。ところが買ってくるのはよいのだが、駄菓子屋のガムやチョコレートを全部購入してしまう。僕たちはまだ子供のためはしがつても実際にはあまり食べられるものではない。だから夏などはチョコレートを溶けてしまう。祖母が彼の前で言ってしまったことがある。「私は甘納豆が大好きでねえ」と、すると君塚さんは今度は来るたびに甘納豆を買ってくるようになった。ところが祖母は僕たちよりもずつと小食なのである。それなのに彼は甘納豆を来るたびに買い続けた。その結果甘納豆だから腐りはしなかったものの、うちの茶筒の中は全部甘納豆だらけになってしまった。あれほど気前の良い人はまずいないだろう。それなのに僕と妹はあまり君塚さんを好きにはなれなかった。今考え見れば母と彼にはずいぶん悪いことをしてしまったと後悔している。さて君塚さんと三年くらいすると別れているがこれは彼の浮気と僕と妹がとてもしやがった為の結果である。「三年目の浮気」という歌があるが、浮気という物は僕はよく解らないがたぶん浮気をされた方がシヨックだろうと思う。特にうちの母の場合は彼の浮気が発覚、しかし母は僕たちがいるため全然悲しい態度は見せずに、逆に朗らかに振舞ったのである。そして母は死ぬまで恋はしなかった。さてそれから五年ぐらい経ったある日のこと、母は自分の胸を触りながら祖母にこんな事を言いだした「お祖母ちゃん、私の胸が何だか膨らんできたような気がするの」祖母は母の胸を触りながら「ほんとだ！心配だから一度お医者さんに見てもらった方がいい」二、三日たった後母は病院に行った。そして戻ってくると「お祖母ちゃん、先生が言うには、レントゲンの結果を見なければはつきりとは言えないが（その頃のレントゲンは結果が分かるまでには三日ぐらいはかかった）体の外から診察をした結果はあまりいい物ではないようです、私個人としては思い切った処置をした方がいいと思いますって言われたわ」思い切った処置とは勿論手術のこと（普通は反対だが母は何処か体具合が悪いと頼れる人がいると頼ってしまう癖がある。もともと母の体が弱かったせいもあるが）病院に行った。そして医者からは乳ガンの疑いがあるといわれた。その時母は顔面蒼白になったそうだ。彼女は医者に聞いた。「私助かるんでしょうか」「手術をすれば治ると思います」病院から帰った母は僕に言う。「私はいやだけれど手術をしてみようかなあ。稔はどう思う」「僕は悪い物とか疑わしい物が体の中に出来た場合はガンではないにしても手術をするべきだと思ってる。母は僕が勤めている日本医大病院に一週間後入院し、四日後手術は行われた。この僕がどんな気持ちで過ごしていたかという、その頃僕は友達が殆どなく毎日を母としかしゃべらなかつた。その母が約二ヶ月間も入院するなんて。母は僕の心を知って祖父や祖母に僕のことを頼んでいたのを聞いてしまったのだ。

次回に続く

わたるのドミトリライフ

【ドミトリとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第9話 2度目の入寮式

大学生活も1年目が終わり、新しい年を迎える。年度末の部屋割り会議を経て、僕は同じ学年の比較的仲の良かった友人と同じ部屋に住む事になった。1年目は自分の部屋の居心地に最後まで馴染めなかったのが、今年こそはという思いが強かった。また、相部屋となる友人も1年目は部屋の状況が僕と似たようなものだったので、僕と彼が手を組もうとしたのも当然といえば当然だったのかもしれない。彼も僕と同じように、隣の先輩の部屋によく行く常連であり、夜通し語り合ったり、ドライブをしたり、遊びまくったりという仲間の一人だった。だから彼と一緒に住もうという話にはお互い何のためらいもなかった。4月の新年度が始まる前に部屋の引っ越しを済ませ、明るい希望を胸に僕は2年目の寮生活を迎えた。

新しい年度の最初の行事は入寮式であり、その後の2ヶ月近く続く新歓期を取り行うのは新歓実行委員であり、その委員は僕達2年生で構成されていた。入寮式の日初めて寮にやってくる1年生たちを迎え入れるというのは大事な役割だ。たった1年前に僕ら2年生が先輩達にしてもらった事を、今度は僕らがするのだ。

入寮式当日に初めて寮にやってくる1年生達は、1年前の僕らがそうであったように、期待と不安を胸に抱えているはずだ。そんな彼らを温かく迎え、楽しい歓迎会を催すために、新歓実行委員会は何日も前から打ち合わせをし、準備をしている。1年生が寮に入るとまず自分の部屋に手荷物を置きに行き、相部屋の先輩と顔合わせをする。その後それぞれ降りてきて、風鳴館に集合する。集まった1年達はそれぞれに自己紹介などをして、とりあえずの顔合わせをする。1年生を風鳴館に集めている間に実行委員は食堂の飾り付けをする。紙飾りなどを壁や窓に貼ったりして、食堂をデコレートするのだ。

食堂の装飾を終えると入寮式が始まる。先に先輩達が席に座り、1年達は食堂の外で待たせておき、実行委員の挨拶で式は幕を開ける。1年は一人ずつ食堂に入れられ、先輩達の前で自己紹介をさせられる。カチカチに緊張している者や全く動じず明るく自己アピールする者など十人十色だ。そんなニューフェイス達をやさしく、時にはヤジリながら先輩達は迎え入れる。自己紹介が終わると先輩達と席を並べながら食事を取る。和気あいあいと賑わいながら、1年生にとっての初めての“同じ釜の飯”は進む。僕が1年の時は緊張しまくりでほとんど食事がのどを通らなかった事を覚えている。

食事が終わると飲み会が始まる。お酒やつまみなどの準備も実行委員の役目で、食後の片付けと飲み会用の用意をし、委員のかけ声と共に飲み会は始まる。始めは緊張気味の1年達も徐々に馴染んできて、先輩達と語り合うようになる。このころようやく一仕事終えて肩の荷が降りてきた実行委員の僕らも酒の輪に入る。王様ゲームや山手線ゲーム（もちろんそれらには必ず罰ゲームも盛り込まれる）などで盛り上がりながら夜は更けていく。翌日は入学式なので朝起きられるかな、と1年達を心配しながらも、けど去年のこの日は僕らは明け方までみんなで残って窓から差し込む朝陽を眺めたものだと思い返していた。もちろん、翌日の入学式は二日酔いや寝不足などでみんな散々な思いをしてもいたが。

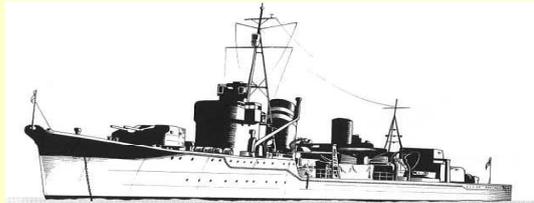
なにはともあれ、そんなふうに僕にとっての2年目はスタートした。それは、僕にとっての自堕落な寮生活の始まりでもあった。

～ 第10話へつづく ～

シベリヤ出兵秘話

第51話

2台のトラックは、サイドカーに先導され、それぞれの道を横須賀を目指し凸凹な悪路を、フルスピードで走り続け、途中、食事の30分と1時間に5分間の小休止だけの強行軍であった。（当時は、日本の道路は、舗装していなかった。日本で、初めてのアスファルトの舗装道路第一号が出来たのは、大正13年に、東京神宮外苑絵画館前の道路で、今も遺してあるそうです）1台は、横浜に立ち寄り、ニクロム線を積み込むと、横須賀軍港を目指し走り続ける2台のトラックは、相前後して、駆逐艦磯風に辿り着いた、悪路の道と暑さの11時間の強行軍、とにかく、発電機とガソリンを無事に送り届けてみんな汗と土埃の顔で疲れ切っていた。指揮官の参謀波瀬倉中佐が、諸君今日は、暑い中をよく頑張って無事任務を果たしてくれた、指揮官として皆に感謝と礼を言う。波瀬倉中佐は、今夜は遅いので、海軍横須賀鎮守府の御厚意で、海兵団に泊めてもらうことになった。急いで移動の号令で、海兵団に向け走り出した。（海兵団とは、新兵の水兵を6ヶ月間 カッターの訓練や、陸戦の訓練を受けて、水兵としての基礎訓練を受ける兵舎のことです）翌日 早朝、駆逐艦磯風は、釜山に無事積み荷を陸揚げすると、直ちに横須賀に引き帰った。



～次回に続く～
栗 あきら

スケジュール

- 5月13日（火） 総務部
- 17日（土） 外に出よう全体集会
- 25日（日） 外に出よう
- 26日（月） 振替休日
- 6月 1日（日） 外に出よう予備日
- 28日（水） 運営委員会
- 14日（土） 総会
- 7月 1日（火） 総務部
- 7月12日（土） 歌と踊りの集い

寄付のお礼

（四月一日～五月二日）

ご寄付を下された方

福島照行様、佐知子様 薛永日様
薛陳月美様 薛美莎様、美莉様、芬芳様

賛助会にご賛同下さった方

真鍋貞子様、洋子様 岡竹徹様 堀信子様
太田ヨシ江様 眞部富久松商店様
山本喜美枝様 飯田キエ子様 東寿司様
飯尾直美様 国枝三代子様 善波祥子様
谷島イクエ様 匿名5名様

誠にありがとうございました

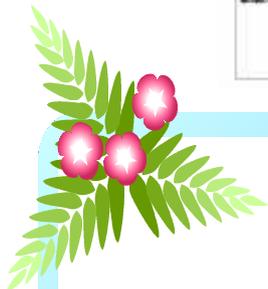
ご協力ありがとうございました



きょうされん国会請願
署名、募金運動終了！

第31次国会請願署名・募金運動

全国キャンペーン



きょうされん（旧称・共同作業所全国連絡会） 第31次国会請願署名の最終報告

今回の「きょうされん31次国会請願署名・募金」も、多くの方のご協力により、沢山の署名と募金を頂くことが出来ました。風の子会に送られたものと2回のJR田町駅での街頭署名・募金と合わせた最終の署名数と募金額をここにご報告いたします。

5月16日 最終集計
 署名数・・・485筆
 募金額・・・11万9964円

皆様の署名は、きょうされんで取りまとめて、代表団により国会に提出します。募金は請願運動の諸経費として、大切にに使わせていただきます。署名用紙を実習所にご郵送された皆様、署名にご協力下さった皆様、募金を下さった皆様、街頭でお声をかけていただいた皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

署名担当 丸岡秀明・矢代奈津三



僕は三月のある土曜日に風の子を休んで、赤坂サカスの方に行きお花見をしました。三月二十日にオーブンをしたので興味津々で行ったのですが、人混みやペットだらけでしたので、花見どころではありませんでした。その夜の夜祭で、芸人感謝祭が行われるという

ことで、警備をしているスタッフや、ガードマンが多かったのが印象的でした。買物をするにも、フードコーナーが多かったの以外は、いまいちパツとしない所だと感じました。東京ミッドタウンやお台場周辺の方が見所があるように思います。さくらの花は木が植えられたのが最近らしくて、あまり綺麗ではありませんでした。これからありませんでした。これからの街ですから、五年後や十年後の赤坂サカスを楽しみにしています。

タナツキ



今、テレビやゲームで出来る雑学・常識や国語（漢字）・数学にはまっています。元々は全然知識が無かったのですが、好奇心が強いためか、どんどん知識が増えました。以前受けた（受けさせられた？）数検・漢検をまた受けようかと思っているので、勉強中です。

田村 亮彦



訂正とお詫び

先月号の内容に誤りがありましたので、ここでお詫びすると共に訂正させていただきます。

14ページ目（賛助会のご報告とお礼）の 長野松男様に敬称が抜けていました。大変失礼いたしました。

5ページ目（新職員紹介）の新職員の名前が間違っていました。

(誤) 小林高志 → (正) 小林高史

誠に申し訳ございませんでした。



映画スリルがある。アメリカ作品をみて興奮し、力入りを見た。おふくろとテレビを見た。俳優マリーナが。おびて飛ぶ。船中になった。びん入る。飛行機に乗った。アメリカ作品をみて興奮し、力入りを見た。おふくろとテレビを見た。俳優マリーナが。おびて飛ぶ。船中になった。びん入る。飛行機に乗った。

松本 恵司



ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~ 定価40円 ~

編集者
 天海 隆
 太田 隼
 佐久間 彦
 田村 久
 三木 亮
 幸木 史
 和栗 頭
 太郎

太田 圭子
 小野 航
 田中 塚
 松本 恵
 右田 代
 吉田 久

編集人：【高浜生活実習所】
 就労継続支援B型、生活介護

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://www.kazenokokai.npo-jp.net/>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

